

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	鶴見区
学校名	大阪市立今津小学校
学校長名	稻葉 恭子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・今津小学校では、第6学年 116名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語A、国語B、算数A、算数Bとともに大阪市、全国の平均正答率を下回る結果であった。特に算数Bでは大阪市の平均正答率より3.7ポイントも低い結果であり、以前からの「主として活用」についての課題が解決されていない結果が表れた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 「読む」力をつける授業の工夫、「読書タイム」の実践や読書環境の整備等により、「読むこと」の力は定着してきている。しかしながら「書くこと」「話すこと・聞くこと」については、大阪市や全国との差が見られ、読み取ったことの表現についての課題が大きい。

〔算数〕 習熟度別少人数授業の実施等により、基礎・基本となる事項の定着をはかつてきている。B問題（主に活用）での図形領域では大阪市、全国の平均回答率を上回る結果となっている。しかしながら、数量関係では大阪市、全国との差があり、考え方の根拠をあきらかにして論理的に思考していく力の育成が課題である。

質問紙調査より

学校のきまりについては、運営の計画の取り組み内容にあげ、全教職員で指導をすすめてきた。全体としてはきまりを守る意識が向上してきている。自尊感情を育むために、体験的な活動を通して豊かな感性や情操を育てることに取り組んでいる。集団つくり、異学年交流等の実践により、協力することで味わえる達成感について成果が見られる。家庭での予習、復習、宿題については、今後も継続して指導をしていく必要がある。

今後の取組

習熟度別少人数指導をさらに充実させ、より個に応じた指導をすすめることで、基礎・基本となる事項の定着を図る。B問題（主に活用）については、依然として課題が大きく、自分の考え方の根拠を明らかにして発信できる力を向上させていく必要がある。校内研修として、全教員でB問題を解くという研修を実践しているが、さらにB問題を分析し、問われている学力とは何かを意識した授業改善につなげていく。「読む力を育てる」ことを目標として読書活動の充実に取り組んできた成果が表れてきている。今後も継続して取り組んでいく。